

セスナ式172Mラム型JA3853 航空事故調査状況報告

運輸安全委員会
平成26年3月



1. 事案の概要

個人所属セスナ式172Mラム型JA3853は、平成26年3月5日（水）、訓練飛行のため11時39分ごろ愛知県営名古屋飛行場を離陸し、愛知県豊田市上空を飛行中の11時47分ごろ、同市篠原町大沢に設置してある高電圧送電線用鉄塔に衝突した。

同機には、機長ほか同乗者1名が搭乗していたが、全員が死亡となり、機体は大破、飛散した。

2. 初動調査実施概要

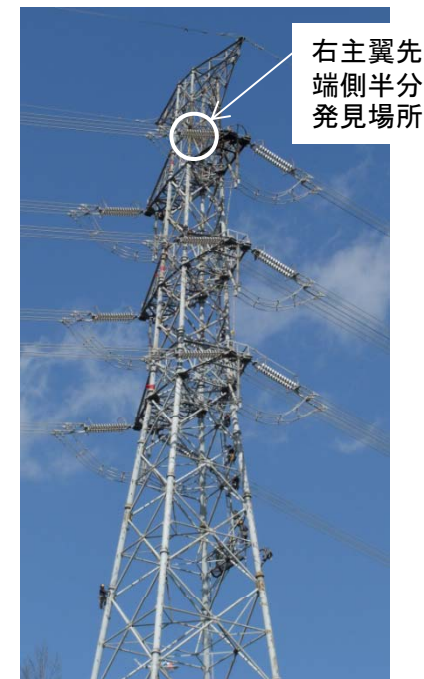
- 3名の調査官を3月5日から8日の日程で派遣
- 散乱していた機体残がい等の状態及び位置調査の実施
- GPS記録装置の確保
- 搭載用航空日誌など搭載用書類の確保
- 目撃者複数名及び整備士からの口述聴取
- 整備記録等の入手
- 県営名古屋飛行場の管制機関及び気象機関等からの情報収集
- 電力会社からの情報収集

● 現在までに判明した飛行の経過

事故当日の朝、名古屋飛行場は視程が悪く、計器気象状態であったが、同機は、11時25分に有視界気象状態となった直後の11時39分に離陸した。同機は有視界飛行方式での飛行であったが、当日、東海～関東地方の天候は悪く、経路上の雲がかなり低い状況であった。

衝突した鉄塔頂部の高さは海拔約265メートルで、その頂部から約5.5メートル下部に衝突したと考えられる。

なお、現在のところ機体不具合が関与した情報はない。



● 今後の調査予定

- ・ レーダー航跡の入手
- ・ 気象情報の入手
- ・ GPSの解析
- ・ 出発の判断に関する事項
- ・ その他必要と思われる事項

事故機の飛行経路概要

(国土地理院地図使用)



愛知県名古屋飛行場

直線で約22Km

出発後、ほぼ衝突現場への方角をとって飛行。
経路の詳細は、レーダー航跡及びGPSデータ
入手後に分析する予定。

事故機が衝突した鉄塔